

みんなちがって あたりまえ でも 子育てに 不安を 感じる すべての方へ
 子育て おうえん ちょっと 休憩しませんか？



「ミルクティー」



村松小学校特別支援コーディネーター 下田誉子

気温が不安定で憂鬱ですね・・・まずは、あまいミルクティーをどうぞ。

今回は、LD（学習障害）についての話です。

勉強を真面目に受けていて、知的な遅れが見られない。宿題も怠けることなく、がんばっているのに、なぜか・・・すらすらと文字を読むことが苦手。毎日漢字の練習を熱心に行っているのに、覚えられない。話を聞いているようなのに、後で聞くと、聞いていない、理解していない。計算がいつまでも苦手。

このように、知的発達に遅れはないけれど、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態のことを、「学習障害」といいます。その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されています。

この障害は、病気ではないので、何かをして治るものとは少し違い、その子の生涯を通して、困る場合が出てきます。

「怠けている、勉強が足りないからもっともっと勉強しなさい。」と言われても、「学習障害」だったとしたら、その子は、追い詰められて苦しくなるばかりです。

「学習障害」の子には、その子にあった配慮があることで、学ぶことが少し楽になります。

例えば、漢字の読み障害であれば、ふりがなをつける。もしくは、デイジー教科書というデジタルで読み上げてくれる教科書を利用する。（学校に依頼することで、クロームブックで使えるようになります。これは、申し込みが必要ですが、無料。）その他にも、様々な方法を学校で相談し、できる範囲の支援をします。

つまり、それだけ、「学習障害」のある子の存在が認められてきているということです。

「学習障害」だけではなく、「感覚過敏」の子もいます。大きな音が苦手。大勢が苦手。匂いが苦手。肌着の肌触りが苦手。味が苦手。子どもは、とても辛いけれど、それを我慢するのが当たり前と言われると、だまって我慢します。そして、最後は、疲れてしまい・・・不登校、ひきこもり・・・。

村松小学校では、できるだけ早めにそのようなお子様を見つけて、支援する体制づくりをしています。しかし、お子様がかなり我慢したり、保護者から、我慢しなさいと言われてたりすると、想像を絶するほどの我慢をします。言えないのが子ども。見つけ、気づくことは、保護者や担任にしかできません。まずは、一番近くの保護者の皆様で、ちいさなことで気づいてあげることが一番。

お子様が困っていることに、早く気づき、早く学校に相談し、学習への配慮をしたり、トレーニング（これは、通級「あおぞら」で行います。）をしたりしていきましょう。

教育相談を申し込まれて、スクールカウンセラー（大徳先生）に相談するのもよい方法です。大徳先生は、精神科の心理士で、公認心理師（国家資格）です！

（そこで、再度、教育相談の申し込み書を配布しました。）

ミルクティーの味は、いかがだったでしょうか。では、次は10月号で。

